



Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート

XCP 1040 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-1369-10
2007 年 5 月, Revision A

Submit comments about this document at: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
テクニカルサポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
最新パッチの入手方法	viii
smpatch CLI を使用してパッチを入手	viii
Update Manager GUI を使用してパッチを入手	x
追加情報	xii
ドキュメントの利用について	xiii
コメントの送付先	xiii
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
Solaris パッチ情報	2
既知の問題	3
一般的な機能の問題と制限	3
ハードウェアの設置とサービスの問題	4
特定の問題と回避方法	4
U320 PCIe SCSI カード	4
DIMM の交換	5

電気仕様	5
ハードウェアドキュメントの変更予定	6
PCI カセットの増設	7
ソフトウェアに関する問題	8
XCP の問題と回避方法	8
Solaris の問題と回避方法	10
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	13
WAN ブートサーバからのブート	14
getflashimage の簡易版 man page	14
概要	14
説明	15
オプションとオペランド	15
例	15
ソフトウェアドキュメントの変更予定	16

はじめに

このプロダクトノートには、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、またはドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

テクニカルサポート

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントに記載されていない技術的な質問や問題がある場合は、お近くの Sun™ サービス担当員にお問い合わせください。

米国またはカナダのお客様は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) にお電話ください。その他の地域のお客様は、次の Web サイトで、最も近い World Wide Solution Center をお探してください。

<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html/>

ソフトウェアリソース

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

最新パッチの入手方法

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの必須 Solaris パッチは、システムにプレイインストールされています。パッチの一覧については、「[Solaris パッチ情報](#)」(P 2)を参照してください。

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムを更新することができます。

Sun Connection Update Manager に関する情報は、次の Web サイトにある『[Sun Update Connection System 1.0.8 Administration Guide](#)』に記載されています。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4687>

最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の手順に従ってシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用します。

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。

注 – Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。

パッチの入手方法には次の 2 つのオプションがあります。

- 「[smpatch CLI を使用してパッチを入手](#)」(P viii)
- 「[Update Manager GUI を使用してパッチを入手](#)」(P x)

smpatch CLI を使用してパッチを入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名、パスワード、および必要に応じてネットワークプロキシを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。
3. 次のコマンドを入力し、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力し、システムの正しいパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=<semxxxxxxxx>
```

5. 次の手順に従って、パッチをインストールします。

このパッチは、Sun Connection Update Manager でダウンロードできます。

- a. 次のように入力し、パッチを `/var/sadm/spool` ディレクトリにダウンロードします。

```
# smpatch update -i xxxxxx-xx
```

- b. パッチを解凍するには、次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip xxxxxx-xx.jar
```

- c. ファイル `/var/sadm/spool/xxxxxx-xx/README.xxxxxx-xx` に示されている特別なインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. パッチをインストールした後、システムを再起動します。

注 - `reboot` コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。代わりに、`init` コマンド、または `shutdown` コマンドを使用します。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

7. 次のコマンドを入力し、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力し、パッチをダウンロードしてインストールします。

```
# smpatch update
```

9. パッチのいずれかでシステムの再起動を求められた場合は、[ステップ 6](#) を参照してください。

これでパッチのインストールは完了しました。

Update Manager GUI を使用してパッチを入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名、パスワード、および必要に応じてネットワークプロキシを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。
3. 次のコマンドを入力し、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. Update Manager を起動します。

```
# /usr/bin/updatesmanager
```

5. Update Manager の Available タブで、ドロップダウンメニューを開き、Update Collection から Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers を選択します。

Update Manager は、必要なパッチがあるかどうか、システムを分析します。

6. パッチ `xxxxxx-xx` が推奨される場合、パッチ ID の左側にあるボックスをクリックしてこのパッチを選択し、Install ボタンをクリックします。

パッチは `/var/sadm/spool` にダウンロードされます。

7. 引き続き、次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip xxxxxx-xx.jar
```

8. ファイル `/var/sadm/spool/xxxxxx-xx/README.xxxxxx-xx` に示されているインストール手順を実行します。

9. 118833-36 をインストールした後、システムを再起動します。

Update Manager の指示に従って再起動するか、あるいは次のように shutdown コマンドまたは init コマンドを使用します。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

注 - reboot コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。代わりに Update Manager、init コマンド、または shutdown コマンドを使用します。

10. 再び Update Manager を起動して、Enterprise Server コレクションを選択します。
11. Update Manager で新しい分析が自動的に開始されない場合は、Check for Updates ボタンをクリックします。
12. パッチの一覧で、パッチ ID の左側にあるボックスをオンにしてパッチを選択します。
13. Install ボタンをクリックします。
Update Manager は、パッチをダウンロードしてインストールします。
14. パッチのいずれかでシステムの再起動が求められた場合は、[ステップ 9](#) を参照してください。

これでパッチのインストールは完了しました。

追加情報

追加情報については、Solaris ドキュメントに付属のリリースノート、および最新の『Solaris 10 Sun Hardware Platform Guide』を参照してください。また、このマニュアルに追加の補足がないかどうか、ドキュメント Web ページを確認してください。最新情報は、次の Web サイトに掲示されます。

<http://www.sun.com/documentation/>

ドキュメントの利用について

サーバを増設、管理、および使用する手順は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントで説明しています。ドキュメントセット一式は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/documentation/>

注 - これらのプロダクトノート情報は、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントの情報に優先します。

Solaris Operating System (Solaris OS) のドキュメントは、次の場所にあります。

<http://www.sun.com/documentation/>

コメントの送付先

Sun はドキュメントの品質向上に関心があり、お客様のコメントや提案を歓迎しています。次の URL からコメントを投稿できます。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

フィードバックには、次のドキュメントタイトルと Part No. も記載してください。

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート XCP 1040 版、
Part No. 820-1369-10

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート

本書は、次の項で構成されています。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- Solaris パッチ情報
- 既知の問題
- ハードウェアの設置とサービスの問題
- ソフトウェアに関する問題

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次のファームウェアとソフトウェアのバージョンがサポートされています。

- サーバには、XSCF Control Package (XCP) 1040 以降がプレインストールされています。

注 - サーバにプレインストールされている XCP のバージョンが 1040 以前のものである場合は、XSCF Control Package (XCP) 1040 以降にアップグレードする必要があります。Web ブラウザインターフェース (BUI とも呼ばれます) を使用して、flashupdate をダウンロードしてください。

- これらのサーバをサポートしている Solaris™ オペレーティングシステム (OS) は、Solaris 10 11/06 OS 以降です。



注意 - CR ID 6534471 : 通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。CR ID 6534471 の回避方法を実行するか、またはパッチが入手可能かどうかを確認し、パッチをただちにインストールしてください。この CR は、「[Solaris の問題と回避方法](#)」(P 10) の項に示されています。

ネットワーク上の Solaris WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバをブートする場合は、実行可能ファイル wanboot をアップグレードする必要があります。詳細については、「[WAN ブートサーバからのブート](#)」(P 14) を参照してください。

注 - サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョンに関する最新情報については、「[ソフトウェアリソース](#)」(P vii) を参照してください。

Solaris パッチ情報

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバには必須パッチがあります。次の順序でパッチをインストールします。

- 118833-36 以降
パッチ 118833-36 をインストールした後、ドメインをリブートしてから次へ進みます。
- 125100-04 以降 (125100-04 より前に 118833-36 をインストールすること)
- 123839-07 以降
- 120068-03 以降
- 125424-01 以降
パッチ 125424-01 をインストールした後、ドメインをリブートしてから次へ進みます。

注 - 最新パッチを探す方法については、「[ソフトウェアリソース](#)」(P vii) を参照してください。インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれています。

既知の問題

この項では、本リリースにおける既知のハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。

一般的な機能の問題と制限

- Dynamic Reconfiguration (DR) コマンドの `addboard`、`deleteboard`、および `moveboard` は次に示す場合に使用が制限されるので、DR はこれらの場合には推奨されません。
 - カーネルメモリを搭載したターゲットボード (SB/XSB)
「[ターゲットボードのカーネルメモリの識別](#)」(P 13) を参照してください。
 - オプション I/O カードを搭載したターゲットボード (SB/XSB)



注意 - サポートされていない構成で DR を使用すると、ドメインがパニックしたり、システムがハングする場合があります。

- ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を行うことができません。
- SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバは、停止交換で使用します。CPU/ メモリボードユニット (CMU; CPU/Memory Board Unit)、I/O ユニット (IOU)、または eXtended System Control Facility (XSCF) ユニットの活性交換はサポートされていません。
- XSCF Web ブラウザインターフェース (BUI と呼ばれます) は、本リリースでは機能の一部のみを使用できます。使用可能になっているのは、XSCF ファームウェアのインポートおよび snapshot の Full ログセットの採取機能のみです。これ以外の操作には、サービスプロセッサおよびドメインでコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。
- Capacity on Demand (COD) はサポートされていません。
- 各ドメインで、次のカードを 3 枚以上 (または組み合わせて 3 枚以上) 使用することはできません。
 - 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP
 - 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP
- PCI Hot-Plug (PHP) は、本リリースでは使用できません。追加情報およびソフトウェアサポートについては、テクニカルサポートまたは販売担当員に確認してください。
- XCP ファームウェアをアップグレードする前に、すべてのドメインの電源を切断してください。

ハードウェアの設置とサービスの問題

この項では、ハードウェア固有の問題とその回避方法について説明します。

特定の問題と回避方法

表 1 に、不具合変更要求 ID が割り当てられた既知の問題を示します。また、実行可能な回避方法も示しています。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	ドメインコンソールが、ブート中に、Mailbox タイムアウトまたは IOCB 割り込みタイムアウトエラーを表示することがあります。	OBP (OK) プロンプトから <code>reset-all</code> コマンドを発行し、リブートします。
6488846	ブート中に、ドメインコンソールが、SG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSI コントローラ I/O カードのチェックサムエラーを表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが入手可能かどうか確認します。
6498780	Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバで、OpenBoot™ PROM (OBP) がオンボードのディスク (HDD) ブートデバイスを検出しないことがあります。boot disk を実行すると、次のコンソールメッセージが表示されます。 Can't locate boot device	PCI または PCI-X プラグインアダプタカードが正しく取り付けられていない可能性があります。IOU のスロット 0 にカードを取り付け直してください。

U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (Part No. 375-3357-01/02) は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。375-3357-03 以降を使用する必要があります。

DIMM の交換

DIMM は、停止 FRU 交換コンポーネントです。DIMM を交換するには、サーバ全体の電源を切り、電源コードを抜く必要があります。

SPARC Enterprise M4000 サーバには最大 4 つのメモリボードを、SPARC Enterprise M5000 サーバには最大 8 つのメモリボードを実装できます。メモリボード上の DIMM は、グループ A およびグループ B に分割されます。

DIMM の実装条件は次の通りです。

- DIMM はグループ毎に 4 枚単位で実装されます。
- グループ A の DIMM の容量は、グループ B の DIMM の容量以上でなければなりません。グループ B には DIMM を搭載しなくてもかまいません。
- グループ A 内の DIMM、グループ B 内の DIMM は同一容量、種別 (rank) のものを搭載してください。グループ内で異なる容量の DIMM は混在できません。
- 各グループの DIMM の容量およびランクは、同じユニットの同じグループ内で同等でなければならない。別々のドメインまたはグループには、容量またはランクが異なる DIMM を実装できます。

異なる容量、種別 (rank) の DIMM に交換する場合は、同一 CMU 内の全てのメモリボードにおいて上記条件を守る必要があります。

電気仕様

次の変更内容は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ設置計画マニュアル』に含まれるものです。

表 2 ミッドレンジサーバの電気仕様

	SPARC Enterprise M4000	SPARC Enterprise M5000
消費電力	2,016W	3,738W
皮相電力	2,058 VA	3,815 VA
発熱量	6,879 BTU/時 (7,258 kJ/時)	12,754 BTU/時 (13,457 kJ/時)

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、ハードウェアの最新情報を示します。

表 3 に既知のドキュメントの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのすべてのドキュメント		DVD という表記は、すべて CD-RW/DVD-RW と読み替えてください。
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ設置計画マニュアル	1-5	表 1-3 「ミッドレンジサーバの物理仕様」 SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの「奥行き」の正しい数値は 810mm/31.9 in. です。
	2-2	表 2-2 「ミッドレンジサーバの電氣的仕様」 変更内容については、「 電気仕様 」(P 5) を参照してください。
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル	8-4	8.1.3 「PCI カセットの増設」 変更内容については、「 次の変更内容は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』に含まれるものです。 」(P 7) を参照してください。
	11-6	11.2 「DIMM の交換」 変更内容については、「 DIMM の交換 」(P 5) を参照してください。
	C-6	表 C-5 「電源」 変更内容については、「 電気仕様 」(P 5) を参照してください。

次の変更内容は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』に含まれるものです。

PCI カセットの増設



注意 – PCI カセットをスロットに無理に取り付けしないでください。そうすると、カセットやサーバを損傷させることがあります。

1. PCI カセットの位置をプラスチック製の灰色のガイドに合わせ、PCI カセットをスロットに増設します。
2. レバーを所定の位置にロックして、カセットを装着します。

注 – レバーを動かすと圧力が生じ、所定の位置にロックする直前に、圧力が急に開放されます。圧力が開放されないままレバーを所定の位置にロックすると、カードが正しく装着されないことがあります。これが起きると、カードを減設し、増設しなおす必要があります。

注 – 活電交換を使用して PCI カセットを装着する場合は、カセットの電源投入と構成が自動的に行われます。カセットが正しく装着されていることを確かめるには、カセット上の Power LED が点灯していることを確認してください。

3. PCI カセットにすべてのケーブルを接続し、必要に応じてケーブルマネジメントアームを再接続します。

ソフトウェアに関する問題

この項では、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。

XCP の問題と回避方法

表 4 に既知の XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 4 XCP の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6486286	ドメインコンソールの接続を切断したとき、シェルがキャンセルされません。	コンソールの接続を終了する前に、必ず Solaris (OS) からログアウトします。 誤ってログアウトせずにドメインコンソールを切断した場合は、次の手順に従います。 <ul style="list-style-type: none">• 再びドメインコンソールにログインします。• ログアウトします。• コンソールの接続を終了します。
6519877	XCP ファームウェアをアップグレードする前に、すべてのドメインの電源を切る必要があります。	flashupdate コマンドを使用して XCP ファームウェアをアップグレードするには、ドメインの電源を切ります。
6521896	ブート中に XSCF ユニットにログインすると、XSCF> プロンプトではなく bash\$ プロンプトが表示され、ほとんどの操作が実行できなくなることがあります。	bash\$ プロンプトからログアウトし、XSCF ユニットのブートが終了するのを待ちます。
6529635	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスが電源オフと表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboards コマンドを使用し、システム電源のステータスを確認します。 showdomainstatus コマンドを使用すると、正しいステータスを表示するまでに、より長い時間がかかります。
6532036	構成データを更新するコマンドには、実行に比較的長い時間がかかるものがあります。	set* コマンドを中止しないでください。ハングしているように見えても、最終的には約 30 秒で完了します。
6533158	障害 (memory.block.ue) が 10 時間ごとに報告されます。エラーは定期的に発生し、報告されます。	DIMM に訂正不能のエラーがあるので、DIMM を交換する必要があります。

表 4 XCP の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6537025	最低 1 時間も稼働することなく XSCF ユニットが 3 回連続して突然リブートした場合、XSCF ユニットはブートしなくなり、交換しなければなりません。	ユーザーアクションが原因で XSCF ユニットがリブートする場合は、その操作を繰り返すのをやめて、この症状が再び発生するかどうか確かめてください。XSCF ユニットの少なくとも 1 時間稼働させるか、または必要に応じて <code>rebootxscf</code> コマンドを使用して、失敗した操作を再試行する前にクリーンリブートを行います。
6537345	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損している (たとえばインポート中にブラウザウィンドウが閉じている) 場合、後に <code>flashupdate</code> コマンドで内部エラーが報告されることがあります。CR ID 6537996 も同様です。	コマンド <code>getflashimage -d</code> を使用し、破損したイメージを削除します。必要に応じて、XSCF ユニットのリブートしてから、再度 <code>flashupdate</code> コマンドを使用して内部エラーをクリアします。
6537408	<code>moveboard</code> コマンドを使用して COD ボードを移動しようとする、失敗することがあります。	<code>moveboard</code> コマンドの代わりに、 <code>deleteboard</code> コマンドおよび <code>addboard</code> コマンドを使用します。
6538022	XSCF ファームウェアは自らを監視し、不整合が検出されると強制的にリブートします。	回避方法はありません。XSCF ユニットにリブートを完了させます。約 5 分以内に通常の操作に戻ります。
6538564	<code>rebootxscf</code> コマンドを使用すると、プロセス停止エラーが発生し、場合によっては FMA イベントが発生して <code>MSG ID SCF-8005-NE</code> が表示されることがあります。	回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6543260	データベースがクリアされた後、 <code>showaudit all</code> コマンドを使用すると、ポリシーセクションにデフォルトの長いリストが表示されます。	次のコマンドを実行し、実在しないユーザーのデフォルト設定をクリアします。 <code>setaudit -a opl=enable</code> <code>setaudit -a opl=default</code>

Solaris の問題と回避方法

表 5 に Solaris の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 5 Solaris の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6459540	DAT72 内蔵テープドライブがテープの処理中にタイムアウトする場合があります。 またデバイスは、システムに QIC ドライブとして識別されることもあります。 また、デバイスが DAT ではなく QIC として使用されます。	Solaris の /kernel/drv/st.conf ファイルを次のように更新してください。 <pre>tape-config-list = "QUANTUM DAT DAT72-00", "QUANTUM DAT DAT72- 00", "CFGQUANTUMDATDAT7200", "SEAGATE DAT DAT72-00", "SEAGATE DAT DAT72-00", "CFGSEAGATEDAT7200"; CFGQUANTUMDATDAT7200 = 2,0x34,0,0x18619,4,0x47,0x47,0x47,0 x47,3,0,600,600,600,600,600,10800; CFGSEAGATEDAT7200 = 2,0x34,0,0x18619,4,0x47,0x47,0x47,0 x47,3,0,600,600,600,600,600,10800;</pre>
6472153	SPARC Enterprise M4000/M5000 sun4u サーバ以外で Solaris インストールイメージまたはブートイメージを作成し、このイメージを SPARC Enterprise M4000/M5000 sun4u サーバで使用すると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに telnet で接続し、コンソールの TTY フラグを次のようにリセットしてください。 <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre>
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	NVRAM に障害が発生している場合、デバイスはネットワークデバイスとして認識されません。サービス担当員に問い合わせ、FRU を交換してください。
6495303	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用しないでください。
6498283	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。	回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。

表 5 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6505921	システムバスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6508432	PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。	これらのエラーをマスクするには、次のエントリを /etc/system ファイルに追加し、システムをリポートしてください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x31c1
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	これらのエラーをマスクするには、次のエントリを /etc/system ファイルに追加し、システムをリポートしてください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask=0x31c1
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	回避方法はあります。
6530178	DR コマンド addboard がハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はあります。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示される場合があります。	回避方法はあります。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6534471	通常の実行中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> 正しい /etc/system パラメータを指定していることを確認してください。 set heaplp_use_stlb=0 パラメータを変更しても問題が解決しない場合は、この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6536564	I/O デバイスの障害が Solaris Fault Management Architecture で正しく診断されないために、defect.eft.undiagnosable_problem が発生したり、または fault.io.* と診断されても別の IOU が識別されたりすることがあります。	I/O 障害により Solaris がパニックしてリポートした場合、fmdump -eV を使用してエラーレポートを表示します。エラーレポートのデバイスパスは、エラーが検出された場所を示すもので、I/O 障害の切り分けに役立ちます。
6539084	PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードが、リポート中にパニックすることがあります。	回避方法はあります。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。

表 5 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6539909	<p>boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	<p>代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。</p>
6542632	<p>ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリリークが発生します。</p>	<p>回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6545685	<p>電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。</p>	<p>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やします。</p> <pre>set mc-op1:mc_max_rewrite_loop = 10000</pre>

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

ターゲットボード (SB/XSB) にカーネルメモリがある場合、Dynamic Reconfiguration の使用は推奨しません。

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4 列目の perm mem MB のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674 MB のカーネルメモリが 00-2 にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合に deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

3. ボードにカーネルメモリがある場合、n と入力して DR コマンドを中止します。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:n
disconnect SB5
DR operation canceled by operator.
XSCF>
```

WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバをブートできるようにするには、次の手順を実行します。

1. WAN ブートサーバに Solaris 10 11/06 OS をインストールします。
2. 本リリースから、インストールサーバ上の適切な場所に実行可能ファイル `wanboot` をコピーします。詳しい方法については、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh65?a=view>

3. Solaris 10 11/06 OS から WAN ブート `miniroot` を作成します。詳しい方法については、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh63?a=view>

実行可能ファイル `wanboot` をアップグレードしないと、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバは次のようなメッセージを表示して、パニックします。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

WAN ブートの詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh5i?a=view> を参照してください。

getflashimage の簡易版 man page

概要

```
getflashimage [-v] [[-q] -{y|n}] [-u user] [-p proxy] [-t
proxy_type] url
```

```
getflashimage -l
```

```
getflashimage [[-q] -{y|n}] [-d]
```

```
getflashimage -h
```

説明

getflashimage (8) コマンドは、flashupdate (8) コマンドで使用されるファームウェアイメージファイルをダウンロードします。ファームウェアの以前のイメージファイルが XSCF ユニットにある場合、そのファイルは新しいバージョンのダウンロード前に削除されます。このコマンドを実行するには、platadm 権限または fieldeng 権限を持っている必要があります。

オプションとオペランド

最も一般的に使用されるオプションとオペランドを次の表に示します。

-d	XSCF ユニットに残っている以前のファームウェアイメージファイルをすべて削除し、その後で終了します。
-l	XSCF ユニットに残っているファームウェアイメージファイルを表示し、その後で終了します。
-u <i>user</i>	認証が必要なリモートの ftp サーバまたは http サーバにログインするときのユーザー名を指定します。パスワードを入力するよう求められます。
<i>url</i>	ダウンロードするファームウェアイメージの URL を指定します。

例

コード例 1 : ユーザー名とパスワードを使用するダウンロード

この例では、任意指定の -u *user* オプションを使用します。

```
XSCF> getflashimage -u jsmith \  
http://imageserver/images/FFXCP1041.tar.gz  
Existing versions:  
      Version                Size  Date  
      FFXCP1040.tar.gz      46827123  Wed Mar 14 19:11:40 2007  
Warning: About to delete old versions.  
Continue? [y|n]: y  
Password: [not echoed]  
Removing FFXCP1040.tar.gz.  
      0MB received  
      1MB received  
      2MB received  
      ...  
      43MB received  
      44MB received  
      45MB received  
Download successful: 46827KB at 1016.857KB/s
```

コード例 2 : 使用可能なファームウェアイメージファイルの一覧

```
XSCF> getflashimage -l
Existing versions:
      Version                Size  Date
      FFXCP1040.tar.gz      46827123  Wed Mar 14 19:11:40 2007
```

コード例 3 : 以前のファームウェアイメージファイルすべての削除

```
XSCF> getflashimage -d
Existing versions:
      Version                Size  Date
      FFXCP1040.tar.gz      46827123  Wed Mar 14 19:11:40 2007
Warning: About to delete old versions.
Continue? [y|n]: y
Removing FFXCP1040.tar.gz.
```

ソフトウェアドキュメントの変更予定

この項には、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、ソフトウェアドキュメントの最新情報が記載されています。

表 6 ソフトウェアドキュメントの変更予定

ドキュメント	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの すべてのドキュメント		すべての DVD という表記は、CD-RW/DVD-RW に読み替えてください。
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9 000 サーバ XSCF ユーザ ーズガイド		XSCF Web がサポートする Web ブラウザには次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Internet Explorer 6.0 以降• Firefox 2.0 以降• Mozilla 1.7.x 以降• Netscape Navigator 7.1 以降

表 6 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (続き)

ドキュメント	ページ番号	変更内容
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	ioxadm (8) man page	<p>ioxadm(8) コマンドに必要な権限は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • platop 権限 : オペランド env、list を使用できます。 • platadm 権限 : オペランド env、list、locator、poweroff、poweron を使用できます。 • fieldeng 権限 : オペランド env、list、locator、poweroff、poweron、reset、setled を使用できます。 <p>上記の修正内容は、特に指示がない限り、XSCF が提供するマニュアルページにも適用されます。さらに、この修正内容はマニュアルページの情報に優先します。</p>
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	showldap (8) man page showlookup (8) man page showcodusage (8) man page showemailreport (8) man page	<p>showldap、showlookup、showcodusage、showemailreport のマニュアルページには、これらのコマンドが fieldeng 権限で使用できることは記載されていません。</p>
Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	setaudit (8) man page showaudit (8) man page getflashimage (8) man page	<p>setaudit および showaudit のマニュアルページは、監査クラスに関する情報に誤りがあります。監査クラスとその値は次のとおりです。</p> <p>ACS_SYSTEM : 1 ACS_WRITE : 2 ACS_READ : 4 ACS_LOGIN : 8 ACS_AUDIT : 16 ACS_DOMAIN : 32 ACS_USER : 64 ACS_PLATFORM : 128 ACS_MODES : 256</p> <p>XCP 1040 では、新しいコマンド getflashimage を使用できます。このコマンドは、XSCF Web に代わってファームウェアイメージのダウンロードに使用できます。getflashimage のマニュアルページは、オンラインまたは XSCF リファレンスマニュアルには含まれていません。</p> <p>getflashimage の簡易版マニュアルページについては、「getflashimage の簡易版 man page」 (P 14) を参照してください。</p>

